

波郷記念館だより

第二十七号



発行日
平成 27 年 3 月 20 日
発行元
江東区砂町文化センター
〒136-0073
東京都江東区北砂 5-1-7
電話：03(3640)1751

第十四回石田波郷記念 「はこべら」俳句大会授賞式

三月八日（日）、装いも新たに変わった砂町文化センター第二研修室にて、「はこべら」俳句大会の授賞式が行われました。例年よりも多い、投句数七百六十六件の中から選ばれた大賞二句、特選十五句、入賞四十九句を表彰し、出席された受賞者の句について、選者の先生方から講評をいただきました。



選者の先生方（左から）
上田日差し子、大串章氏、鈴木しげを氏、
徳田千鶴子氏（水原春郎氏代理）、渡辺恭子氏

また、砂町文化センター二階では、「はこべら」俳句大会の入賞作品展も同時に行い（～三月十五日まで）受賞者の方々がご自身の句の前で記念撮影をする風景も見られました。

第14回石田波郷記念
「はこべら」俳句大会
「はこべら賞」受賞者、
なかでみちこさん
(3月8日)



2階展示ロビー ▶
入賞作品展
(3月8日～15日)

受賞作品（大賞・特選句）

■はこべら賞

波郷忌の暮れゆく波郷墓前かな 世田谷区 なかでみちこ

■石田波郷記念館賞

綿虫や火種のごとき師の一語 熊本県 近藤輝

■上田日差し子 特選

冬紅葉永久に波郷は五十六 江東区 観音堂松雄

綿虫や波郷系に母ありき 世田谷区 筒井カヨコ

墨堤は光を撓めゆりかもめ 江東区 染井かしこ

■大串章 特選

師の語る青年波郷温め酒 愛知県 古賀勇理央

波郷忌を教へてくれし母は亡し 江戸川区 長阪信子

綿虫や火種のごとき師の一語 熊本県 近藤輝

■鈴木しげを 特選

図書館にひとりの午後や惜命忌 江東区 多田敏行

惜命の杖見て冬の小名木川 北区 山崎奈穂

白神の水ふみけりななかまど 千葉県 石田和子

■水原春郎 特選

波郷忌の水河口まで澄みにけり 岐阜県 小出ひかり

石鎚山は男の山や忍冬忌 福岡県 坂井恵美子

冬菊の影を崩さず忍冬忌 足立区 野口放生

■渡辺恭子 特選

波郷忌の暮れゆく波郷墓前かな 世田谷区 なかでみちこ

藍の氣息嘗めて確かむ伊予の秋 江東区 大野南蒼

樹木医の木の葉の名刺あたたかし 江東区 小出功



第14回「はこべら」俳句大会句集
砂町文化センター窓口にて販売中
(1冊 500円)

俳句鑑賞講座

「命」を詠う俳人たち

講師 ■ 俳誌「鶴」主宰・俳人協会監事 鈴木しげを
清瀬稲門句会 大島薫、清瀬市協力

結核に冒されていた石田波郷は、その生涯において己の病・命を見つめた句を多く詠みました。今回は、石田波郷や正岡子規、川端茅舎、野見山朱鳥などが詠んだ「療養俳句」をテーマに取り上げ、そこから見えてくる俳人たちの人生、「命」のあり方を学びます。また、第二回目には、石田波郷が療養生活を送っていた清瀬市を訪れ、文学散歩を行います。



石田波郷

★講座情報★

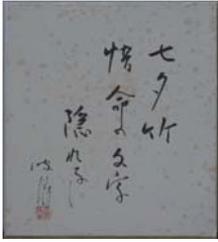
日程：5月23日（土）～6月27日（土）
回数：全4回
時間：14時～15時半（90分講義）
定員：25名
受講料：3,400円（全4回分）
教材費：1,200円（全4回分）
会場：砂町文化センター 第1会議室ほか

申込は3月24日まで。
ただし、申込状況によっては、メ切後も
先着順で受け付けます。詳しくはお問合せください。
(03-3640-1751)

★展示情報★

講座に関連した、波郷の療養俳句などの展示を行います（4月1日～を予定）。この機会にぜひご来館ください。

七夕竹惜命の文字隠れなし
—石田波郷



■講座担当レポート■

波郷の面影を訪ねる （清瀬市）

二月の小雪が舞う中、今回の俳句鑑賞講座第二回目に予定している外出講義の下調べとして、文学散歩の講師である大島さん（清瀬稲門句会）と香西さん（清瀬市市史編さん室）ご案内のもと、清瀬市の見学に行ってきました。

結核に冒されていた波郷が療養生活を送っていた清瀬。「病院の街」と呼ばれている通り、清瀬駅前の商店街を抜けると、閑静な住宅街の中に様々な医療関係施設が建ち並んでいました。

中央図書館↓中央公園（句碑・石碑）
↓東京病院と、文字で起こしてみれば大変すっきりとしたルートですが、見所はいたるところにあります。今回はその印象に残ったいくつかの場所をご紹介します。

外気舎・出発点

広大な敷地を持つ東京病院の一角にある「外気舎記念館」。



写真：出発点

ここは結核患者が回復期に入る療養病舎でした。予め申請をしなければ中に入ることができないため、この日は外からの見学となりました。やや曇った窓ガラスから見た小さな部屋には、木でできたベッド

が二台ほど並んでいるだけ。また、建物の向いにある木々は、ここで軽作業療養をしていた患者が植えたものだとか、案内役のお二人に教えていただきました。

そしてもう一つ、心に残ったのは「出発点」という碑です（写真）。この碑が立っている場所は、外気療法を行っていた患者が社会復帰に向けて歩行療法を行った「出発点」、または「はじめの一步」だったそうです。辛い療養生活を経てこの場所に立った患者たちは、一体どのような思いだったのでしょうか。

石田波郷も見た、清瀬の自然

清瀬市にはいたるところに雑木林があり、大変自然豊かなところ。清瀬市市史編さん室が発行している『市史で候』には、この清瀬の自然こそが結核の療養を支えていたのだと書かれています。当時の結核の療養には「大気・栄養・安静」が何より大切なことでした。

波郷は随筆にて「五月こそは清瀬村のもつとも誇り得る季節である」と書いていますが、講座で予定している外出講義は図らずも五月です。

長い冬も終わり、春もすぐそこまで来ています。この良い季節に波郷の面影を探す旅に出してみませんか。

■参考■

市史編さん草子『市史で候（そつろう）』
（清瀬市市史編さん室）
石田波郷読本
（角川学芸出版）

砂町文化センターニュース

平成27年3月20日発行
江東区砂町文化センター
江東区北砂5-1-7
03(3640)1751
<http://www.kcf.or.jp/>

春の講座受講生募集中

鑑賞
教養

～ゴッホ没後125年～ 西洋が見つめた “ジャポニスム”

「ジャポニスム」それは、主に19世紀後半から始まった、西洋諸国においての新たな美術的革新を生み出した一つのムーブメントでした。

この講座では、ゴッホをはじめとする当時の画家たちの作品を鑑賞しながら、彼等が影響を受けたジャポニスムについて学び、そして考えていきます。



ゴッホ《種蒔く人》

講師：宮崎 克己（美術史家・昭和音楽大学教授）

渡邊 晃（太田記念美術館主任学芸員）

アートテラーとに～（アートテラー）

◆金曜日・全3回・19:00～20:30

5/29、6/12、6/26

◆受講料：3,300円

◆教材費：100円

趣味
実用

日本茶の魅力 ・再発見！

～おいしくお茶を楽しむために～

日本人の食生活に欠かせない飲み物である日本茶。講座では「歴史文化」「利き茶」「自分好みの味」「癒し」などをキーワードに奥深い魅力を学び、実習を通して楽しんでいきます。

日本茶の面白さや本当のおいしさなど、新たな発見をしてみましょう。



イメージ

講師：杉本 守隆（お茶の秋山園店主）

前田 文男（茶師・利き茶十段）

◆金曜日・全5回・14:00～15:30

5/29、6/12、6/26、7/17、7/31

◆受講料：4,500円

◆教材費：1,500円

地域
理解

伝統の 江戸東京野菜

～江戸時代から現在へ～

2011年に、JA東京が商標登録をし、年々登録野菜が増えている「江戸東京野菜」。既に登録されている「亀戸大根」「砂村一本ねぎ」などのほか、今後登録が期待される「中川そら豆」など江東区にゆかりのある野菜がいくつかあります。地域の歴史と照らし合わせて学びます。



講師：大竹道茂

講師：大竹 道茂（江戸東京・伝統野菜研究会代表）

◆木曜日・全5回・14:00～15:30

5/14、5/28、6/11、6/25、7/9

◆受講料：5,000円

◆教材費：200円

※このほか外出講義時に実費負担があります

お申し込み期間

3/24 (火) まで

※はがき・FAXは24日(火)必着
※定員を超えた場合は抽選となります。

※25日(水)以降は先着順にて受け付けます。詳しくはお問い合わせください。

お申し込み方法

①窓口 ※第1・3月曜日は休館日です。（ただし祝日は開館）

②電話 **03-3640-1751** ③FAX **03-5606-5930**

④はがき 〒136-0073 東京都江東区北砂5-1-7

⑤インターネット <http://www.kcf.or.jp>

※インターネットからの講座申し込みには「受講生登録」が必要となります

はがき・FAX 記入例

① 砂町文化センター・講座名 ② 氏名・ヨミガナ ③ 生まれ年（西暦）・性別
④ 郵便番号・住所 ⑤ 電話番号・FAX 番号



文化センター 新発見！

1年休館し、再オープンに伴い新しくなったあれこれを紹介します！

その1 第6会議室 (2階)

新設した会議室です。改修工事を機に、水道設備を完備しました。床はPタイルにしています。ぜひ、ご利用ください。

〔面積〕73.9㎡

〔定員〕45名

〔料金〕午前 (9:00 ~ 12:00) 1,500円

午後 (13:00 ~ 17:00) 3,100円

夜間 (18:00 ~ 22:00) 3,800円



その2 階段の手すり

ユニバーサルデザイン

この、くねくねした手すりの名前は、「クネット」！
しっかりつかまることができるユニバーサルデザイン
です。



その3

エコロジー

北砂公園側の時計

この時計は太陽光で
動きます。とてもエ
コロジーな設備を設
置しました。



地域コラム「砂村新田の大名屋敷跡」

南砂2・3・7丁目付近

江戸時代、砂村新田は江戸の最南端に位置しており、その先には遠浅の海が広がり、この海岸線に沿って大名屋敷が並んでいました。現在の南砂2・3・7丁目付近です。

大名屋敷には、藩主が居住する上屋敷、隠居・世嗣が暮らす中屋敷、避難場所、物資貯蔵場、または別荘の機能を持つ下屋敷と、いくつかの種類がありましたが、砂村に構えられた屋敷は抱屋敷と呼ばれるものでした。抱屋敷とは、幕府から下賜された屋敷ではなく、その土地の所有者の農民や町人から借りて建てた屋敷のことです。

砂村の抱屋敷は寛文13年(1673)に久保田藩佐竹家(18,660坪)が成立しており、17世紀後半から確認できます。天保11年(1840)の絵図では、西から①福井藩松平家(32万石)、②萩藩毛利家(36万石)、③川越藩松平家(15万石)④津山藩松平家(10万石)の抱屋敷が構えられていたことがわかります。また、安政～文久年間(1854～63)には松江藩松平家(18万石)の屋敷も存在しました。いずれも2～9万坪の広大な土地でしたが、その多くは敷地すべてが屋敷地ではなく、田畑があり、土地を所有する農民が出入りしていました。

毛利家の抱屋敷は「鎮海園」と呼ばれ、10代藩主斉熙が隠居後居住していました。また、幕末期にはここで大砲が製造されていました。当時ここで造られていた大砲をモデルに作成した長州藩大砲製造場跡モニュメントが南砂2丁目11番地の南砂緑道公園に設置されています。

(参考文献「江東区の文化財8砂町」)